

# 日本ピア・サポート学会 研究紀要「ピア・サポート研究」投稿規程

- 1 本誌は日本ピア・サポート学会の機関誌であって、本誌への投稿は本学会の会員に限る。共同執筆の場合は全員が会員であること。
- 2 投稿論文は未発表のものに限る。
- 3 本学会の研究大会への発表と「ピア・サポート研究」への同時投稿は可とし、「ピア・サポート研究」への投稿は発表年度限りとはしない。
- 4 投稿論文はピア・サポートに関する研究論文、実践論文、実践報告または資料とする。  
分類は次の通りとする（分類は各自で選ぶが、審査により他に移る場合もある）。  
<研究論文> ピア・サポートに関する調査研究、又は理論的考察の論文。  
<実践論文> ピア・サポートに関する実践論文（論文としての体裁（①先行研究の検討、②具体的な方法、③結果・考察、④引用文献の適切な引用及び明示）が整っており、単なる追試やまとめではなく、オリジナリティがあることが望ましい）  
<実践報告> ピア・サポートに関する実践報告（実践・事例の内容が中心で、文献研究や考察が少なくても良い）  
<資料> 資料として掲載する価値のあるもの。
- 5 調査やアンケート結果のみの応募及び本学会設立の趣旨に合わないものは不可とする（不明の場合は、研究紀要委員長に問い合わせる）。
- 6 論文は、A4縦置き・横書き、2段組として、23字×39行×2段×10枚～12枚程度とし、図表・写真・調査資料も前述の枚数に含めるものとする。  
本文の前には、1段組で、1行目に論文タイトル、2行目に執筆者名、3行目に英文の論文タイトル、4行目に英語表記の執筆者名を示す。5行目から論文の要旨（abstract）を1段組、47字程度×10行程度で示す。論文全体を通してページ番号を付する。
- 7 注記・引用文献は一括して本文の後ろにまとめ、注記には注記番号をつける。引用文献はアルファベット順に並べ、下記例示の内容を示す。  
<単行本の場合> 3) トレバー コール『ピア・サポート実践マニュアル』川島書店 2002 PP.10-11  
<論文の場合> 4) 大場陽子・山崎トシ子「ピア・サポート学習の実践」『学校教育相談研究』第13号 日本学校教育相談学会 2003 PP.59-65  
<外国文献の場合> 5) Glutting, J. J. ,& Oakland, T. (1993).GATSB:Guide to Assessment of Test Session Behavior for the WISCIII and WIAT. San Antonio, TX:Psychological Corporation. 6) Lichtenberger, E. O., Mather, N., Kaufman, N. L., Kaufman, A. S.
- 8 論文の文体は「である」調とし、常用漢字・現代かなづかいを用いる。
- 9 論文提出の際は論文とは別に、下記内容をA4用紙1枚にまとめた応募票を添える。  
「論文タイトル」「日本ピア・サポート学会会員番号」「執筆者氏名（複数の場合は全員を記載する）」「所属・職名」「連絡先（連絡のつきやすい携帯番号など）」「郵便番号・住所（自宅なのか、職場等なのか明記する）」「Eメールアドレス」
- 10 提出の際、全文のコピーを4部添付する。そのうち2部は査読委員に執筆者が特定できない状態で査読を受けることから、執筆者名や謝辞等での人名を削除し空欄にして提出のこと。  
その他、論文及び応募票のデータをUSB、フラッシュメモリー、CD、DVD等に記録したものを提出

すること。その際、他の投稿者との混同を防ぐため、必ず媒体に直接（ケースや紙ではなく）、執筆者と提出月日を明記すること。

- 11 原則として提出された原稿等は返却しないので、必ず自分のもとにデータを残すこと。
- 12 投稿論文は、研究紀要委員会が審査の上、掲載の可否を決定し投稿者に連絡する。
- 13 掲載が決定した場合、論文ごとの表記の統一・整理は、特に申し出のないかぎり、研究紀要委員会で行う。
- 14 投稿についての問い合わせ及び送付先は、研究紀要委員長とする。

2019年3月31日改定